

臨床検査科支部会報

ピペッツ Vol. 28

2006年8月25日発行

編集責任者 舟田 和幸

編集委員代表 見手倉久治 近末久美子

編集発行 川崎医療短期大学同窓会（松丘会）
臨床検査科支部

〒701-0194 倉敷市松島316番地

TEL 086-462-1111（内43097）

印刷 友野印刷㈱

「研究ノススメ」

川崎医科大学検査診断学教授（同附属病院中央検査部部長）

川崎医療短期大学臨床検査科教授 通山 薫

タイトルを見ただけで、「もう、うんざり」なんて貴兄・貴女がおられるかもしれません。仕事そのもの（多くの方は臨床検査関係でしょうか、他の領域のお仕事や主婦の方も多いでしょう）に邁進しておられる方は多いと思いますが、こと研究となるとちょっと事情は違うかもしれませんね。「研究」ってごく一部の人々がおこなっている浮世離れした、あるいは仰々しい行為なののでしょうか？

私は川崎医科大学の一角に検査診断学（病態解析部門）という小さな研究室を構えています。もともと血液学を専門にしてきたので、血液細胞、とくに血球分化と機能発現や白血病を中心にした細胞、蛋白、遺伝子の研究をほちほち進めているところです。最近では医学部の大学院生や他大学からの研究生、時期によっては臨床検査科の学生さんが出入りするようになり、小部屋の中にしばしば人がひしめき合う有様です。研究室補助員の栃木さんがいつもエレガントに取り仕切ってくれており、若い人たちが集って実験に励んでいる姿は実にほほえましいものです。

博士号を目指して取り組む研究はさぞ大変だろうと多くの方々が思っておられるようですが、正直申し上げてさほどのことではありません。もちろん事前学歴などはクリアしておかないと学位取得のルールに乗れませんが、大学院や社会人枠などの受け入れ制度は大学によってかなり異なるので、本気で博士号を目指す方がおられたら別途ご相談に応じるこ

ととして、研究そのものを始めること自体には何の資格もキャリアも必要ないのです。唯一必要なのは研究してみようという意欲で、我々はこれをリサーチマインドと呼んでいます。

学生時代に成績がよかった人がいい研究ができるとは限りません。子供の頃みな取り組んだ夏休みの自由研究・・・日頃算数や理科が苦手な子が案外ユニークなテーマに取り組んで表彰されたり・・・いい研究とはそのようなものなのです。研究遂行にとって有利なのは、ちょっとしたことに興味や好奇心がわく人、固定観念にとらわれない人、あと根気は必要ですね。うまく行かないからといってすぐにめげる人は研究に向きません。長らく主婦をしている方の中には、日常生活のなかでおもしろい工夫をしたり、誰も考えつかないような才覚があって生活をエンジョイしているような人がいますが、こんな人こそ本当は研究に向いていると思います。自らがけた研究成果が論文になって自分の名前が世に出ることに喜びを感じてみませんか？これは一種の自己満足かもしれませんが、小さな研究の積み重ねが医学・医療の進歩につながることもあるのです。ちょっと奮起して、あるいは空き時間を利用して私も研究してみようかなと思う方がおられたら、ぜひ検査診断学研究室にご一報ください。（川崎医科大学検査診断学（病態解析）研究室 内線 83616、ktohyama@med.kawasaki-m.ac.jp）

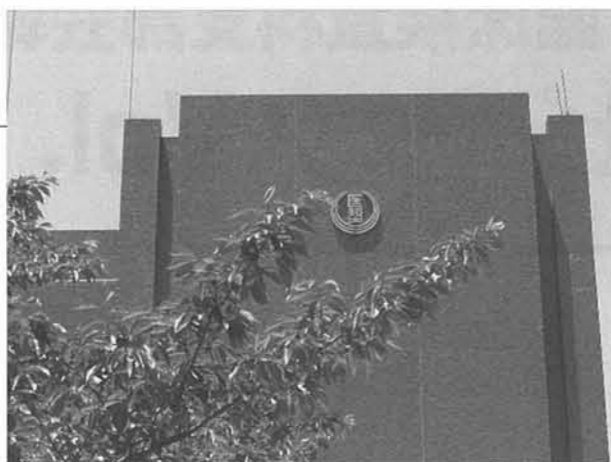
○ 第三者評価に向けて

学校教育法の改正により、「大学・短大は教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況について、文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による第三者評価（認証評価）を定期的（7年以内ごと）に受けること」になりました。

これを受けて、本学は、平成18年度「短期大学基準協会」が実施する第三者評価を受ける予定であり、まさに一定水準の教育の質を問われています。

あらかじめ設定された教育・研究・管理運営・財務などに関する「評価領域」（建学の理念・教育目的・教育目標・教育の内容・学生支援など）ごとに設けられた複数の「評価項目」、「評価項目」ごとに設けられた「評価観点」をそれぞれ自己点検・評価し、報告書として提出することやその報告書に基づく書面審査、訪問調査などが行われます。

提出する自己点検・評価報告書に記載されている内容には、その裏づけとなる根拠資料も数多く必要です。現在は秋に実施される第三者評価に向け、全学をあげて、報告書の作成や根拠資料の準備を進めています。



○ オープンキャンパスの開催

回	実施日	実施時間
第1回	5月27日（土）	13:00～16:00
第2回	6月17日（土）	13:00～16:00
第3回	7月29日（土） 7月30日（日）	13:00～16:00 10:00～15:00
第4回	10月14日（土） 10月15日（日）	学園祭日程どおり 学園祭日程どおり



2006年第1回オープンキャンパスの様子

平成18年度のオープンキャンパスは4回実施され、7月には日曜日にも開催されます。すでに、第1回は5月27日（土）13:00～16:00に、第2回は6月17日（土）13:00～16:00に実施され、高校生やご家族の方が体験実習や科の紹介を熱心に聴講されました。臨床検査科でも、ミニ講義や実習をできるだけ取り入れ、実際に体験し、臨床検査を肌で感じてもらうようなプログラムを実施しています。また、在学生による模擬実習や懇談会など在学生も大いに活躍するオープンキャンパスを実施しています。

詳細については、本学ホームページをご覧ください。教務課（tel 086-464-1033）までお問い合わせください。

○ 公開講座の開催

平成18年度も公開講座が実施されています。第1回公開講座は「子どもの命を守るために」というテーマで6月10日（土）13:00～16:00にすでに実施されています。本学医療保育科教授寺田喜平先生による「子どもの病気と感染症対策」の講演と「乳幼児に対する心肺蘇生」の現地研修が行われ、熱心な受講者が数多く来学されました。各科が趣向を凝らして企画しておりますので、ふるってご参加ください。

第2回 7月29日（土）10:00～11:30

テーマ：「あなたにもできる応急処置」

講演：宇野 恵子 教授、岡田みどり 助教授、岡田 初恵 講師（本学第一看護科）

第3回 10月14日（土）（学園祭当日）10:00～11:30

テーマ：「肺に忍び込む悪もの—アスベストとタバコ」

講演：梶原 康正 教授（本学放射線技術科）

○ 全学統一の制服ができました！

平成18年4月から全学統一の制服になりました。「誰がどの科かわからな～い」という声もちらほら聞こえますが、入学式などで一同集まったときには整然としており、心地よい緊張感に包まれます。臨床検査科は、式典等で緑と黄色のストライプのネクタイを着用することになっています。

○ 売店（TAKASHIMAYA ショップ）リニューアル！

学生の要望に応じて、売店（TAKASHIMAYA ショップ）が平成18年3月下旬にリニューアルオープンしました。若者向けの雑貨や食品の数が増え、雑誌など新たな商品も陳列されています。お近くにお寄りの際には是非とものぞいてみてください。

○ 臨床検査科のあれこれ

■ 平成18年度の入学生は56名（男4名、女52名）です。4名の留年生を加えて60名で新学期をスタートしました。現在1名が休学し、59名が学内での講義・実習に取り組んでいます。担任は近末久美子、副担任は鐵原拓雄先生です。



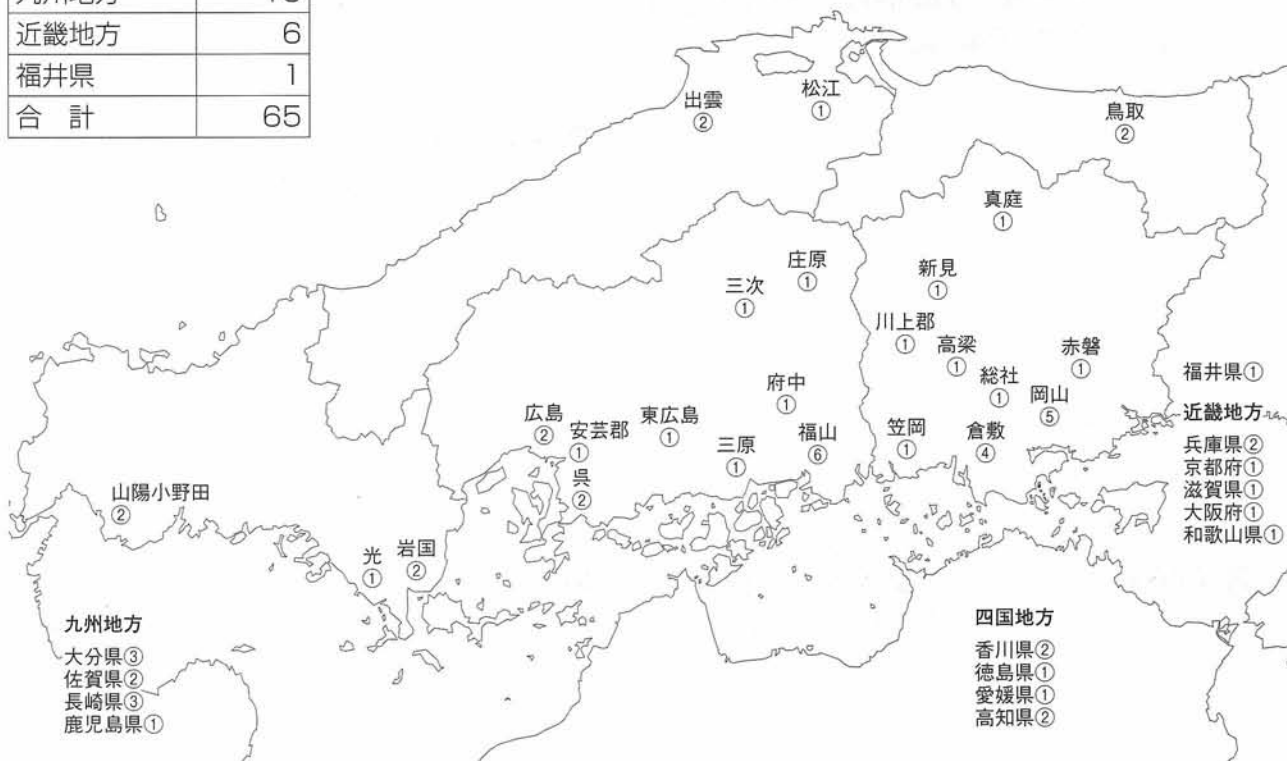
■ 平成18年3月実施の臨床検査技師国家試験の結果がでました。臨床検査科は新卒者数48名、合格者数45名、合格率は93.8%でした。全国の合格率は72.9%です。厳しい現状に短大教員は今一度、教育を考え直さなければならぬ時期にきていると言えましょう。合格率がすべてではありませんが、短大は、確かな知識と技術を持った卒業生を送り出せるような教育をする責任があります。卒業生の皆さんに、この学校を卒業できてよかった、あの技師さんや先生に教わってよかったと言われるよう努力しなければと思っています。同窓生の皆さんもどうぞ、叱咤激励をお願いいたします。

出身県別一覽

(平成 18 年 3 月卒業生)

学生出身県	人数
岡山県	16
広島県	16
山口県	5
鳥取県	2
島根県	3
四国地方	6
九州地方	10
近畿地方	6
福井県	1
合計	65

今年度卒業生の出身県です。就職情報などありましたら下記のホームページからもしくは、短大の小郷先生 (Eメール: ogou01@jc.kawasaki-m.ac.jp) が所司先生 (Eメール: shoshi@jc.kawasaki-m.ac.jp) までご連絡下さい。



川崎医療短期大学
同窓会 (松丘会)

臨床検査科支部ホームページ

大学の近況が写真で見ただけです。
年 4 回更新し、最新情報を発信しています。

<http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/dousoukai/MTshibu/index.htm>

編集後記

長い梅雨が終わり、暑い夏がやってきました。長雨の影響で九州や北陸・信越地方を中心に被害のニュースが毎日のように伝わっていましたが、皆様はお元気でお過ごしでしょうか。本当に自然災害はいつやってくるかわからずおそろしいものだと思います。今年の夏も本当に暑いですね。日本の気候区分が温帯から亜熱帯に変わったのではないのでしょうか。

皆さんそれぞれに夏バテ防止策があると思います。とにかく涼しいところを探したり、開き直っていっぱい汗をかいたり過ごし方は色々ですね。暑い夏にバテないようこの夏にしか出来ないドラマを是非作ってください。

ピペッツ 28 号をお送りしました。今回は巻頭言を通山薫先生にお願いして、皆様の母校である短大のトピックを主題としました。ホームページ同様、同窓会の情報発信源としてピペッツをお読みいただければ幸いです。

(編集委員: 見手倉久治)